

松江市 報道提供資料

令和6年9月25日

件名 特別展「海と湖に生きた人々」展の内覧会開催について
登録有形民俗文化財「島根半島沿岸及び宍道湖・中海の漁撈用具」登録記念

内容

松江市立鹿島歴史民俗資料館では、令和6年10月5日（土）～令和7年1月13日（月）まで、特別展“海と湖に生きた人々—登録有形民俗文化財「島根半島沿岸及び宍道湖・中海の漁撈用具」登録記念”展を開催します。今年3月に「島根半島及び宍道湖・中海の漁撈用具」として登録有形民俗文化財に指定された資料を一堂に展示し、日本海・宍道湖・中海の3つの水域で漁業を営んだ人々の実態に迫ります。つきましては、下記のとおり、報道機関向けの内覧会を開催しますので、ご出席くださいますようご案内をいたします。

【日時】 令和6年10月4日（金） 13：30～
【行程】 13：30～15：00 内覧会（展示担当者が解説します）
【会場】 松江市立鹿島歴史民俗資料館（松江市鹿島町名分1355-4）

また、下記の日程で展覧会を開催します。併せてご紹介いただきますようお願いいたします。

「2024 特別展「海と湖に生きた人々」展

【会期】 令和6年10月5日（土）～令和7年1月13日（月）
【会場】 松江市立鹿島歴史民俗資料館 ※詳細は別紙参照

【問い合わせ】

松江市立鹿島歴史民俗資料館 担当：赤澤 電話：0852-82-2797

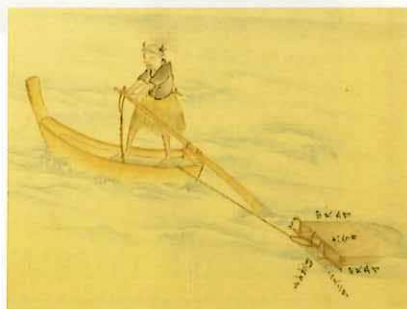
海と湖に生

2024年特別展

きた人々

—登録有形民俗文化財「島根半島沿岸及び宍道湖・中海の漁撈用具」登録記念—

島根半島沿岸部で使用された漁撈用具



アカガイとりの図「因幡伯耆魚漁圖解」
(島根大学附属図書館蔵)

宍道湖で使用された漁撈用具

松江市は北に日本海、市域内に宍道湖・中海という二つの汽水湖がある全国的にも珍しい土地柄である。塩分濃度の異なる三つの水域では漁業の形態もそれぞれに特徴をもっている。令和6年3月に国の有形民俗文化財となった、明治から昭和にかけて日本海・宍道湖・中海で用いられた漁撈用具をとおして、三つの水域で漁業を営んだ人々の暮らしを概観する。

令和6年

10/5

令和7年

1/13

開館時間／午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

休館日／毎週月曜(月曜が休・祝日の場合は翌火曜)、

12月28日～31日、1月2日～4日、

1月1日は新年特別開館

入館料／一般・大学生 300円(250円)

高校生以下無料

※() 内は10人以上の団体料金

松江市立鹿島歴史民俗資料館

島根県松江市鹿島町名分 1355-4 TEL/FAX : 0852-82-2797

https://www.city.matsue.lg.jp/kanko_bunka_sports/

[rekishi_bunkazai/shiryokan/9697.html](https://www.city.matsue.lg.jp/kanko_bunka_sports/rekishi_bunkazai/shiryokan/9697.html)



海と湖に生きた人々

—登録有形民俗文化財

「島根半島沿岸及び宍道湖・中海の漁撈用具」

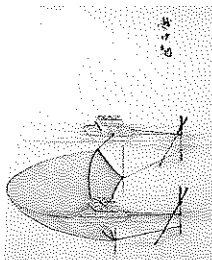
登録記念

主な展示品（記載のないものは松江市蔵）

■ 松江市の三つの水域と漁業

松江市の中央に位置する宍道湖・中海は国内最大の連結汽水湖であり、外海に直接通じる中海のほうが塩分濃度はかなり高い。湖の北の島根半島は日本海に面し、海岸部は入り組んだリアス式の様相を示す。三つの水域のそれぞれの生態系にあわせた多種多様な漁具や漁法が用いられていた。

- 「出雲石見魚漁圖解」・「因幡伯耆魚漁圖解」（島根大学附属図書館蔵）明治時代初期

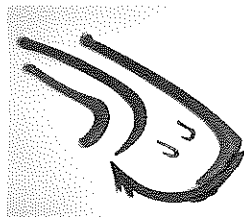


「越中網」「出雲石見魚漁圖解」
島根大学附属図書館蔵

■ 『出雲国風土記』にみる海と湖の産物

『出雲国風土記』には地形の記載にあわせ、多くの水産物が列挙される。遺跡からは魚骨はもとより縄文時代のヤス、弥生時代の巨大な釣針などが出土し、古くからこの地域では豊富な魚介類が利用されていたようだ。

- ヤス、石鍾、シジミ、魚骨（佐太講武貝塚）縄文時代
- マクロ椎骨（北浦松ノ木遺跡）縄文時代
- 組み合わせ式釣針、アワビオコシ（西川津遺跡）弥生時代 島根県埋蔵文化財調査センター蔵
- ヤマトシジミ、アカガイ（サルボウ）、サメ歯・椎骨（若宮谷遺跡）中世

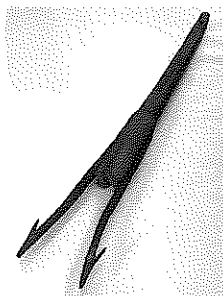


弥生時代の釣針（西川津遺跡）

■ 日本海—島根半島沿岸の漁具

隠岐諸島との間に良好な漁場が広がり、イワシ・トビウオ・サバ・ボラなどをねらった敷網・曳網・流し網など網漁やイカ・ブリなどの釣り漁やタイ・ワニ（サメ）の延縄漁などが行われた。また、海藻や貝類などが豊富な海岸部ではカナギ漁が盛んで、サザエ、アワビ、魚などに専用の突き道具が使われた。鉆にはメチ（アシカやオットセイ）を獲るときに使ったというものが残っている。

- アゴ流し網、モジ網、カエダモ、スクイダモ
- イカ釣り具、タコ針、フカ針
- 箱メガネ、サザエヤス、アワビオコシホコ、メチ鉆
- カガリビタキ、石油ランプ、ガス灯、サンパ船模型
- 煮干し加工用具、ノリ加工用具、作業着

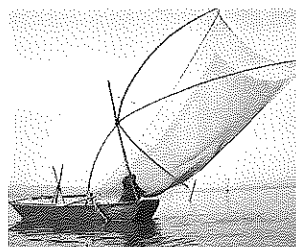


メチ鉆

■ 宍道湖の漁具

シラウオ、アマサギ（ワカサギ）、スズキ、エビ、ウナギとシジミなど汽水性および淡水性の魚類がすむ。波が穏やかで漁がしやすく、定置網、刺し網、四ツ手網、投網やダバ漬け、アマサギ掻きなど様々な漁法が用いられた。刺し網に使われた網は魚種によって網目の大きさが異なり、また、同じ魚でも成長に合わせて網目の大きさを変えたため、かなりの量の網の準備が必要であった。シジミ漁は流通網の整備された昭和30年代から出荷量が増え、松江の名産品になっている。

- シラウオ網、アマサギ網、セイゴ網、カンテラ
- ウナギ釜、タケボツボ、ダバとサンカク網
- シジミジョレン、アマサギ掻き

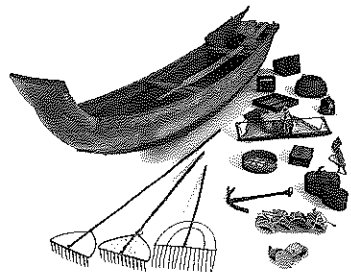


宍道湖の四ツ手網 松江歴史館蔵

■ 中海の漁具

かつては水産資源が豊富で、地曳網、手操網、刺し網などの網漁や昭和30年代まではそりこ舟での桁曳漁が盛んにおこなわれた。桁は木杵に網をつけ釘を取り付けたもので、これをそりこ舟でローリングしながら底曳し、アカガイ（サルボウ）、エビ、海藻、ナマコなどをとる。そりこ舟を左右に大きく揺らしながらの桁曳漁は大変な重労働だったという。

- アカガイ桁、オゴ桁、ナマコ桁、オゴカギ
- ウナギ籠、舟のこたつ、弁当箱
- 版画「出雲中海シラウオ採り」織田一磨（複製、原画：松江歴史館蔵）



中海で使用された漁撈用具（そりこ舟は参考）

■ 国登録有形民俗文化財「島根半島沿岸及び宍道湖・中海の漁撈用具」

令和6年3月21日、松江市の所有する「島根半島沿岸及び宍道湖・中海の漁撈用具」1598点が国の登録有形民俗文化財に登録された。これらの漁撈用具は昭和40年から60年代に島根町、宍道町、八束町の地元住民から各町に寄贈され、展示公開されていたものである。

- 国登録有形民俗文化財登録書

特別展開演講演会

日時／令和6年10月26日（土）10:00～12:00

会場／鹿島ふれあい館会議室（松江市鹿島町北講武 鹿島多久の湯隣）

演題／「湖海の産業近代化—『松江市史 近現代』の成果を中心に—」

伊藤 康宏 氏（島根大学名誉教授）

定員／60名（要申込）

ギャラリートーク

11月2日（土）10:00～10:40、12月7日（土）10:00～10:40

交通アクセス

バス…JR松江駅より一畑バス「恵曇」行、佐太神社前下車徒歩2分
車…山陰道松江西ランプより30分

お問合せ先

松江市立鹿島歴史民俗資料館

〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分1355-4

TEL/FAX 0852-82-2797

